



「つくる」

【他動性特性】I

【意図性と責任の尺度】

意図的にある結果を得るためにプロセスを行うことを表す。そのプロセスはすくなくともある程度の手間がかかる。またプロセスを遂行する能力が必要である。目標どおりの結果を目的語にとるのが中心的意義であり、その場合には最後まで貫徹したことを意味する

→「お金をつくる」、「暇をつくる」

【他動性特性】II

目標とする結果が必ずしも得られるという保証がないような場合には「何とか成就する」という意味になる。

→「お金を作る」は「お金を工面する」という意味で、「お金をもうける」という意味ではない。「資金をつくる。」「ひまをつくる」意図的にするということから何とか都合をつけるという意味を持つ。自然に出来ないものの場合、「つくる」を用いるとかなり努力をしなければならなかったという意味が出てくる。

【他動性特性】III

目標を得る能力が不足している場合には意図したものと違うものになることがあり、そのような結果を目的語にとることが出来る。「てしまう」「ちゃう」と結合することが多い。

- 「また変なモノを、作ってしまった」
- 「消せないファイルを作ってしまった場合」
- 「多めに作ってしまった。腐らないよう長持ちさせる方法はありませんか？」
- 「間違えて有料サイトにIDを作ってしまった。」

【他動性特性】IV

まったく意図していない結果を生み出してしまった場合もあり、責任があると認められる。そのような結果は避けるようにすべきなのに注意不足であったということの意味する。「てしまう」「ちゃう」と結合することが多い。

- 「信じられない行動で**渋滞を作ってしまった男**」
- 「夫が外に**子供を作ってしまった**。」
- 「**敵をつくる**」
- 「**借りを作ってしまった**」
- 「**借金をつくる**」(普通は非意図的であるが責任がある)

【他動性特性】V

「<ヒト>が<身体部分>に<モノ>をつくる」

ひとが身体部分の表面にあるべきでないものをつくる

非意図的であるが、管理責任により責任がある。
管理責任があるとは考えられない生まれつきのも
のは含まない、永続的なものでなく、また瞬間的
でもないものが目的語になる。

→こぶ、おでき、まめ、しみ、しわ、カラスの足跡
あざ、切り傷、？やけど、？ケロイド、？ほくろ

「？彼は胃に腫瘍をつくってしまった。」

→「彼は胃に腫瘍ができた。」